

今月の

ブックトーク

いいウソ？ 悪いウソ？

鈴木千尋／和光小学校学校司書

みなさんはおうちの人や先生から「ウソはついたらいけない」と教わっていますよね。



松本聡美・作
佐藤真紀子・絵
国土社

でも、年に1度だけ4月1日のエイプリルフールにはウソについてもよいという風習があります。最近ではいろいろな企業が面白いウソを発信して話題になったりもしていますね。ウソにも人をだます悪いウソ

もあれば、誰かを楽しませるウソもあるようです。

『ゴいっしょさん』は誰かのことを思いついた優しいウソが、クラスの友だちの間で広がっていくお話です。妖怪博士の洋太にクラスの宮本君が「ゴいっしょさん」という妖怪について尋ねてきました。そんな妖怪はいないと答えた後で、彼がなぜその妖怪のことを聞いてきたか理由を知った洋太は、自分でゴいっしょさんを考えて紙に書いて渡します。洋太が作り出したウソがこの妖怪が、友だちを思う優しい気持ちに乗せて次々と人に渡っていき、誰かを勇気づけます。そして最後には自分のもとにその紙が戻ってきて…？信じる思いが、心を強くしてくれるお話です。

『エイドリアンはぜったいウソをついている』には、「うちには馬がいる」といつも嬉しそうに話すエイドリアンという男の子にうんざりしている女の子が出てきます。



マーシー・キャンベル 文
コリーナ・ルーケン 絵
服部 雄一郎 訳
岩波書店

。普通の町の庭もない小さな家に馬がいるはずがないと思い、ある日「それウソだよ！」と彼にさげびます。けれどもまたまた犬の散歩でエイドリアンの家に行った女の子は彼と話し、あることに気がつきます。想像力のすばらしさを感じる絵本で、最後まで読んで

あらためて表紙を見ると、驚きの発見がありますよ。

小さなウソが、どんどん広まってしまう大騒動になってしまうこともあります。『アーマのうそ』は、「世界ー大きな人形を持っている」とウソをついてしまった転校生アーマのお話です。仲良くなりたくて思わずついたウソでしたが、みんなを期待させてしまい、学校の一大行事である収穫祭でクラス展示としてその人形を持って行くことになってしまいます。困り果てたアーマは、デパートでマネキンを盗んでしまい…？さてこの騒動はどうなるのでしょうか。ウソをついた後本当のことがなかなか言い出せず困った経験がある人もいるかもしれません。アーマに共感しながら読めるユーモアのある本です。



キャロル・ライリー・プリנק・著
谷口由美子・訳、堀川理万子・絵
文溪堂

小さなウソが広まっておおごとになるのは、インターネットの世界でも多くあります。

『ウソがはびこるネット社会を生き残れ!』の1巻では、



佐藤和紀・監修
フレーベル館

誤情報やフェイクニュースに騙されないようにする「信頼できる情報収集の仕方」が書かれています。また、みなさんがこの先自ら情報発信していくことをふまえて、2、3巻で情報の整理や発信の仕方も書かれています。

例えば誤解されやすい言葉の使い方や、ウソ情報を自分も拡散してしまう行動などよくある事例が載っています。インターネットで自ら発信するなんてまだ先のことと思っていなくても、近い将来知らず知らずに自分がウソの発信源にならないよう読んでもくと役立つ本だと思います。

